



TITLE:

京大広報 No. 358

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

---

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 358. 京大広報 1988, 358: 537-540

ISSUE DATE:

1988-10-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209321>

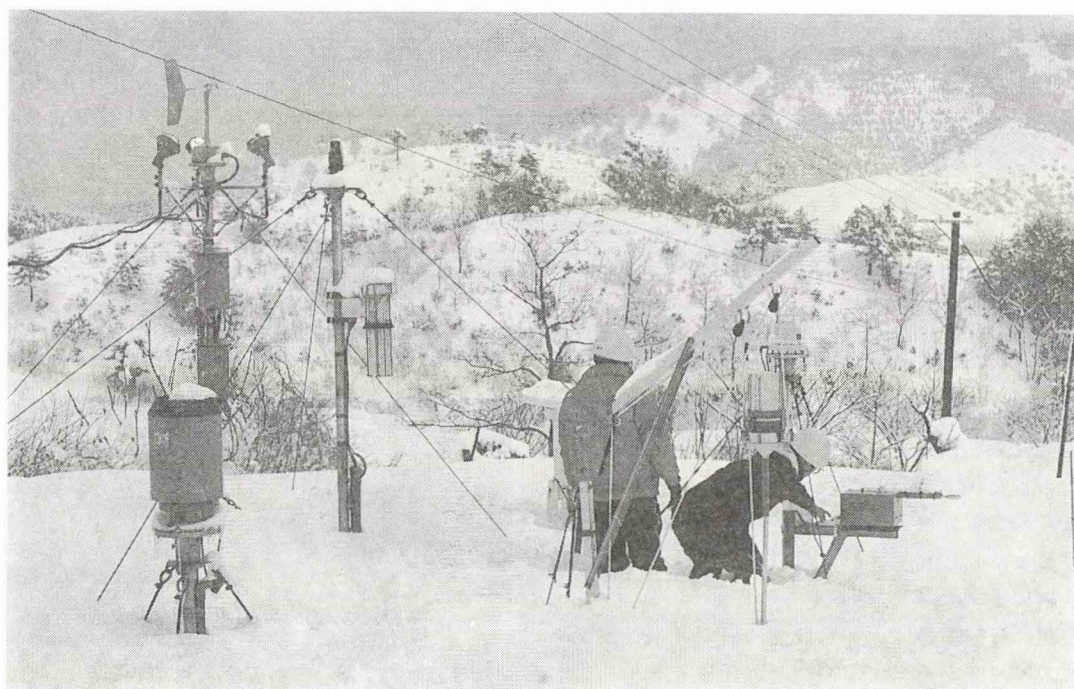
RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

# 京大広報

No. 358

京都大学広報委員会



琵琶湖北部地域の融雪現象の観測

— 関連記事本文 538 ページ —

## 目 次

名誉教授称号授与式…………… 538

9月28日の事態…………… 538

### <紹介>

創立10周年を迎えた

防災研究所・水資源研究センター…………… 538

日 誌…………… 539

### <随想>

検診風景点描

名誉教授 北村 李軒…………… 540

## ＜大学の動き＞

## 名誉教授称号授与式

10月5日（水）午前10時45分から、総長室において、経済学部長の出席のもとに名誉教授称号授与式が挙行され、平田清明元教授（経済学部）に称号が授与された。

## 9月28日の事態

9月28日（水）午前8時30分頃、教養部ストラ

イキ実行委員会と称する集団によって教養部の各門が封鎖されるという事態が生じ、当日に予定されていた教養部前期試験が延期された。

この事態に対し教養部長は次の文書を学内に掲示し、事態は午後2時30分頃終息した。

「大学において教育研究を妨害する行為は容認できない。直ちに原状に復するよう警告する。」

昭和63年9月28日

京都大学教養部長 新田博衛

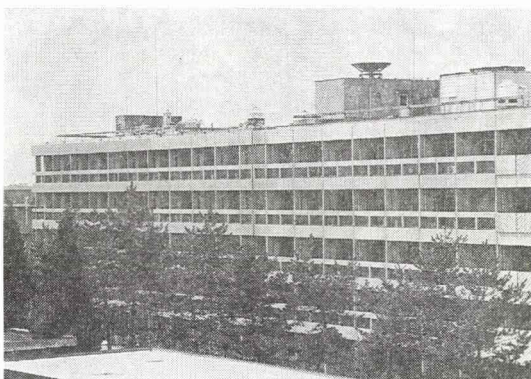
## ＜紹介＞

## 創立10周年を迎えた

## 防災研究所・水資源研究センター

人類が利用し、または利用しようとする水資源を自然と人間活動の両面から総合的、有機的にとらえ、水資源に関する学理を究明することを目的として、水資源研究センターが防災研究所の附属施設として昭和53年4月1日付けで設置されてから、満10年が経過した。

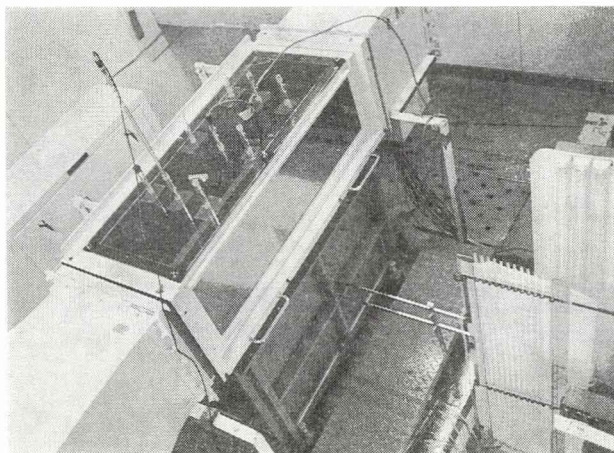
現在の研究組織は、陸水収支の研究と水資源システムの研究を担当する二つの専任研究グループ



防災研究所・水資源研究センター

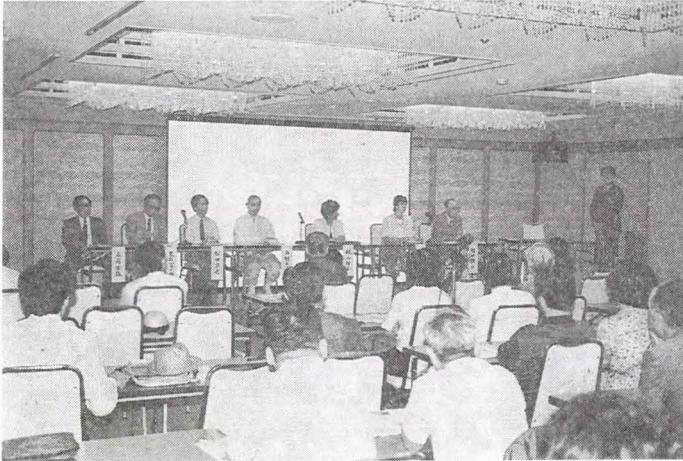
（専任教員5名）と当面する重要プロジェクトの研究を担当する客員研究グループ（客員教員2名）で構成されている。本研究センターは、全国共同利用の研究機関と同様に、学外の専門家を加えた運営協議会が運営に携わり、さらに研究会や研究集会を通じて共同研究を行い、全国の頭脳の結集をはかっているところに大きな特徴がある。

専任教員による研究活動は、降水、浸透、蒸発散、流出等の自然科学的課題と、水供給システム、水需要、水環境等の人間活動にかかわる課題に重点をおいている。客員教員による研究グループでは、従来、地下水開発、新しい水源開発、水利用形態の変遷、古気候の復元、R I

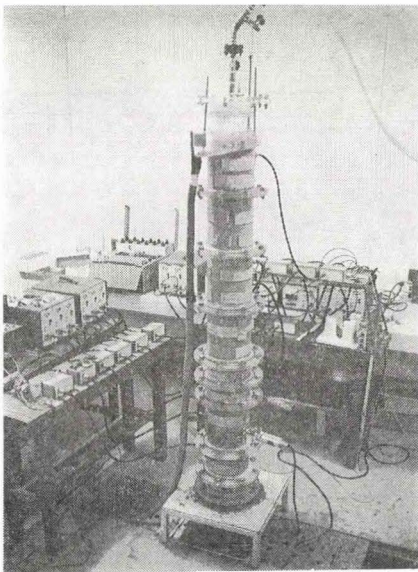


裸地蒸発実験





公開シンポジウム会場



浸透実験

の利用、河川の水質汚濁等に関する研究が行われてきた。今後は、喝水、水の価値、気候変動、リモートセンシング技術の応用等の基本的な課題や新しいテーマをも対象とするよう計画している。

水は、とくにわが国においては、日常無意識に使われ、あるいは安易に取扱われているが、ひとたび不足するようになると大きな社会問題となる。よって、われわれがどんな考え方で水と付合えばよいかは、重要かつ基本的な問題である。水資源研究センターでは、創立10周年の記念事業の一つとして、

本年8月20日京都平安会館において「空から水へ」と題して公開シンポジウムを開催した。素粒子論における無の概念、禅における空の概念、地球化学からみた水環境についてそれぞれの専門家による講演があり、それをめぐり雪氷学者、作家、工学者などからのコメントをもとに一般市民を交えて討論が行われた。わが国では水資源にはかなり恵まれているので、極端な喝水でもないかぎり生活の維持の面に限れば心配は少ないが、社会の発展と水との関係や人間生活と水との関係などを考えるとき、水と人間とのかかわり合いを今後どうとらえればよいかについては、さらにじっくりと考慮すべきだということとなり、盛会裏にシンポジウムを終った。

(防災研究所)

# 日 誌

(1988年9月1日～9月30日)

- |   |  |
|---|--|
| 9月9日 環境保全委員会  | 長ほか3名来学、関係教官と懇談                              |
| 10日 オーストラリア国 Macquarie 大学 D. Yerbury 総長ほか1名来学、総長及び関係教官と懇談 | 21日 同和問題委員会                                  |
| 13日 評議会   | 〃 国際交流委員会                                    |
| 14日 総長、高等教育・研究機関の調査並びに学術交流に関する意見交換のため、イタリア共和国を訪問(24日まで)   | 〃 国際交流会館委員会                                  |
| 17日 中華人民共和国社会科学院 丁 偉志 副院                                  | 26日 学位授与式                                    |
|   | 28日 安全委員会                                    |
|   | 〃 京都大学春秋講義 水曜講義 第1日(以後、10月12日、26日、11月9日、30日) |
|   | 30日 防火委員会                                    |

